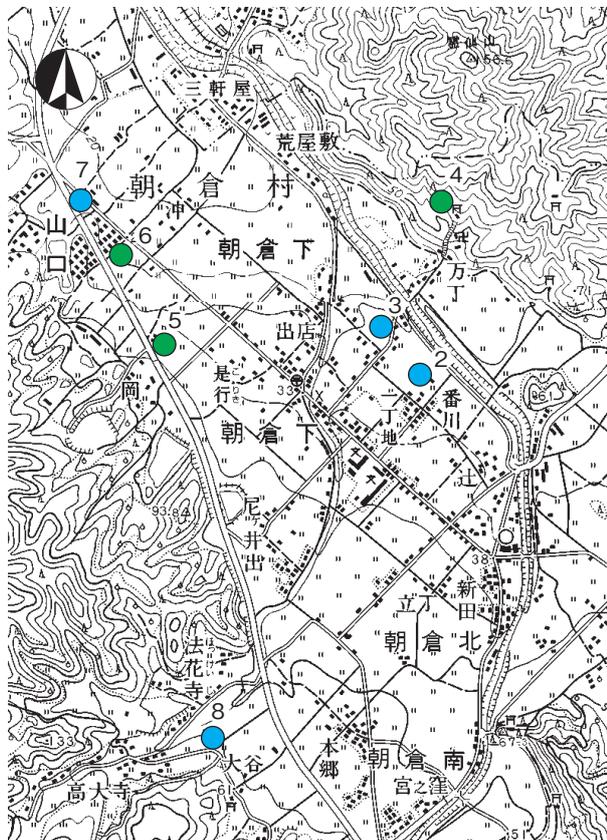


とりごえいちごうふん あさくらみなみ いまわかいせき ごく

鳥越1号墳・朝倉南今若遺跡5区

調査の概要	事業名	平成22年度今治道路埋蔵文化財発掘調査
	調査委託者	愛媛県教育委員会(国土交通省四国地方整備局)
	調査受託者	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
	遺跡名	鳥越1号墳・朝倉南今若遺跡5区
	場所	今治市朝倉南
	調査面積	9,800㎡
	調査期間	平成22年4月1日～平成23年3月25日



鳥越1号墳・今若遺跡5区(南東側上空より)



- 1 野々瀬古墳群(古墳時代)
- 2 朝倉下 経田遺跡(弥生・古墳時代)
- 3 朝倉下 下経田遺跡(弥生・古墳時代)
- 4 満願寺古墳群(古墳時代)
- 5 樹之本古墳(古墳時代)
- 6 根上がり松古墳(古墳時代)
- 7 一本松遺跡(弥生・古墳時代)
- 8 朝倉南甲遺跡(弥生時代)

平成22年度の今治道路埋蔵文化財調査は、朝倉南地区を行っています。今回の現地説明会は、南東丘陵上に位置する鳥越1号墳とその眼下に広がる朝倉南今若遺跡5区を対象とします。

鳥越1号墳は、古墳時代後期(6世紀～7世紀初頭)の円墳で、墳丘には、版築状の盛土が良好に残り、横穴式石室がほぼ完全な形で検出できました。石室内部からは、埋葬された人骨や埋葬時に納められた須恵器や玉・鉄器などが数多く出土しています。

そのほか、朝倉南今若遺跡5区では、丘陵裾を取り巻くように黒岩川の旧河道を検出し、旧河道の岸からまとまった量の古代の須恵器が出土しています。



▲調査前の鳥越1号墳（南東から）

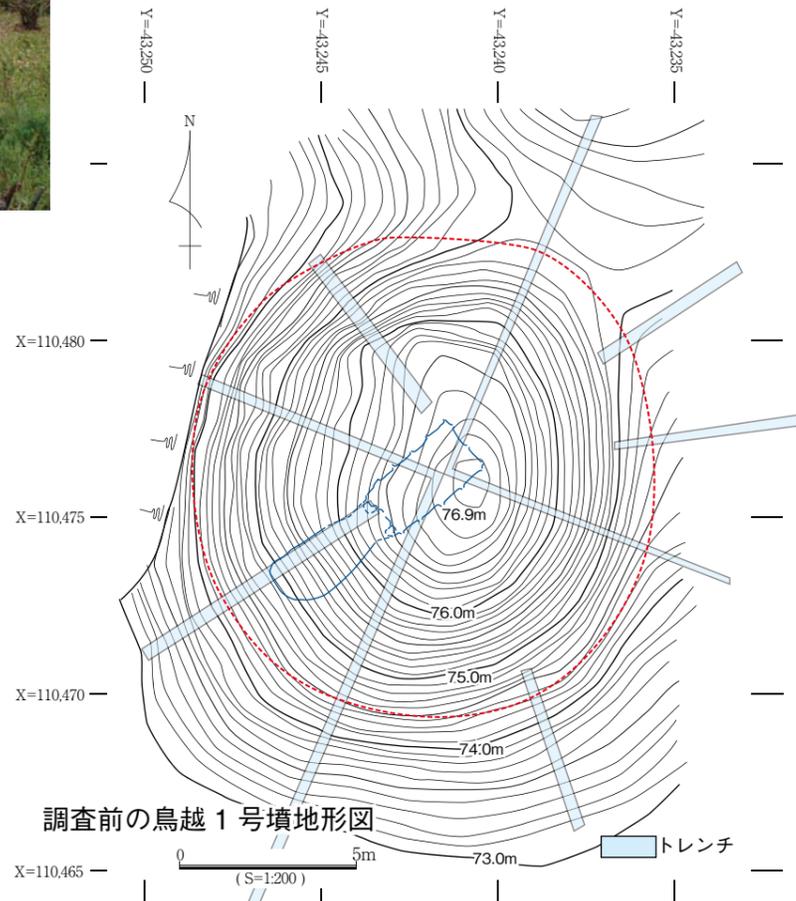
鳥越1号墳のデータ

- ・円墳
- ・直径 14.0m
- ・残存高 2.9m
- ・主体部方位 N47° E

トレンチを入れ、石室が存在することがわかりました。また、石室の入り口が横方向にあることから、横穴式石室（※1）であることが予測できました。入り口は、墳丘の側面からトンネル状に掘り込まれ、一番奥は人頭大の石が積まれ、その手前は版築（※2）状の土層で丁寧に埋め戻されていました。このように横穴式石室の入り口が閉じられたままの状態で見られるのは珍しいことです。

とりごえいちごうふん
鳥越1号墳

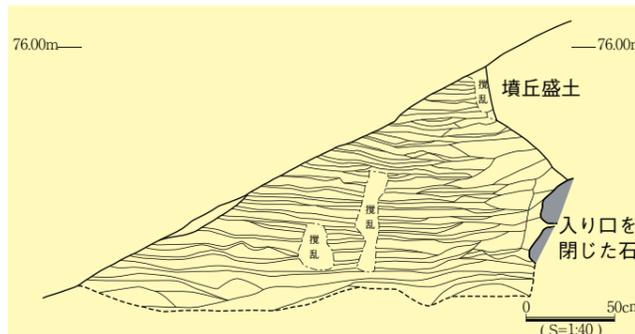
鳥越1号墳は、世田山の北西に延びる尾根から南に下った丘陵先端部に立地しています。標高は約76.9mで、調査前から左の写真のように墳丘が明瞭に確認できました。



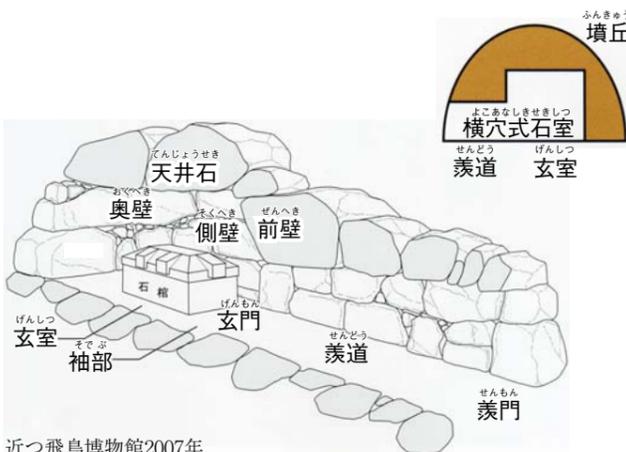
調査前の鳥越1号墳地形図



▲石を積んで閉じられた入り口（南西から）



▲入り口を閉じた版築状の土層



近つ飛鳥博物館2007年
『横穴式石室 黄泉国の成立』より転載
一部改変

- ※1 横穴式石室 古墳の墳丘の横に入り口が設けられ、遺骸を安置する玄室と、玄室に通じる羨道から構成される石室。ふさいでいた入り口を開けると、再度の埋葬（追葬）が可能。
- ※2 異なる土を交互に突き固める工法



▲石室天井石をおおう版築状の土層

墳頂で盗掘坑を発見しましたが、石室の天井石は全て残っていました。大きな石を6個並べ、間に小石を詰めて隙間を埋めています。天井石は、版築状の盛土でおおわれています。今後の調査で、石室の石の積み方や墳丘の土層との関係を観察し、古墳がつくられた過程を明らかにしていきます。



▲土器溜まり

あさくらみなみ いまわかいせき ごく
朝倉南 今若遺跡5区

長さ約50m、幅約10mにわたって、黒岩川の旧河道を検出しました。旧河道に接して土器溜まりがみつけられました。平安時代（9世紀から10世紀）の須恵器がまとまって出土しています。



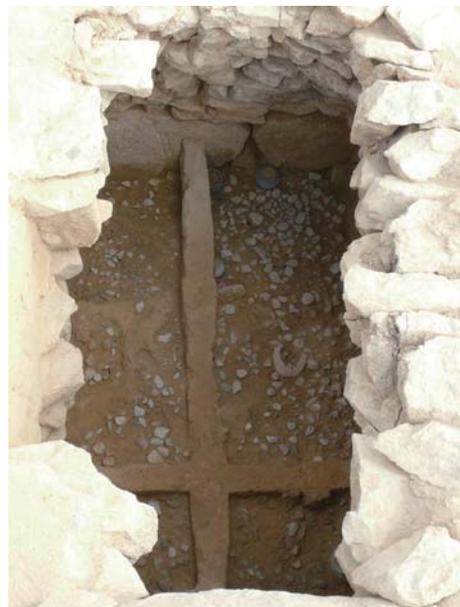
5区全景（南東から）▶

鳥越 1 号墳の横穴式石室の内部

石室の内部は土砂で埋没していて、盗掘の被害をほとんど受けていません。そのため、埋葬した当時のままの状態が保たれています。中央付近に遺骸を安置し、側壁、奥壁に沿って須恵器の壺類が点々と置かれ、玄門近くには杯や提瓶、壺がまとめて配置されています。杯や壺は、蓋をしたままのものがいくつかあります。時期は 6 世紀中頃から 7 世紀初頭にかけてのものです。

そのほかの副葬品は玉類（水晶製切子玉・碧玉製管玉・ガラス製丸玉・ガラス製小玉）、鉄鏃、鉄製鋤先・鎌などがあります。

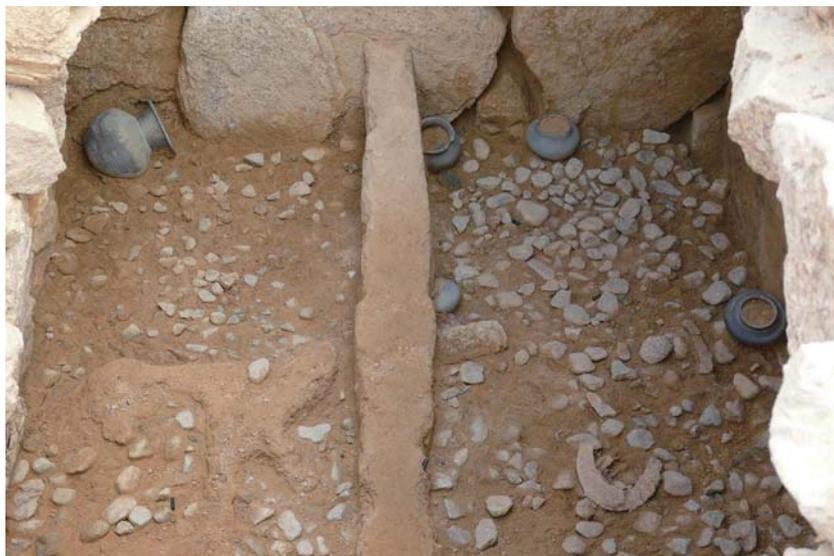
石室は奥壁側が広く、奥壁と側壁の一番下には大きな石を並べています。壁は上部がせまくなるよう石を積んでいます。



鳥越 1 号墳石室内のようす ▶



▲管玉と丸玉



▲奥壁側の副葬品の状況



▲鋤先と鉄鏃



▲まとめて置かれた須恵器

玄門は、両側に柱を立てています。玄室の床面が低いいため、石で階段を造っています。



▲外から閉じられた玄門の状況

発掘調査によって、鳥越 1 号墳は大変残りの良い古墳であることがわかりました。石室の形態は、羨道が未発達で玄室の床が低く、横穴式石室が導入された頃の特徴を示しています。遺物の時期は 7 世紀初頭のものを含んでおり、石室の特徴と一致しません。今後、追葬があったのかどうかなどを慎重に判断する必要があります。また、鳥越 1 号墳の近隣には野々瀬古墳群がありますが、それらとは立地も横穴式石室の形態も異なっており、どのような関係が考えられるのかも重要な検討課題です。